

雪のように降り積もる放射性物質から子どもたちを守る大きな手、巨大ナマズの上で暮らす島国の人たち…。

の主張が認められ、今年8月、強制撤去された。

早川さんたちは解体されたテントの柱や作品を引き取り、組み立て直した。そして運送代を負担してくれれば、作品1枚から無料で貸し出すことにした。

第1号は、今月20日に静岡市内で開かれた浜岡原発の再稼働反対集会だ。地元の実行委の石塚定治

さん(65)は後志管

「館長」の映画 反原発美術館 内積丹町出身は

「テントは反原発

運動のシンボル。多くの人に見てほしかった」と話す。

世論の反対をよそに、政府や電力会社は各地で再稼働を進めようとしている。再生した美術館の出版は増えそう。

早川さんは「原発に関心のない人にこそ見てほしい」と言う。問い合わせは早川さん 080・4146・3404へ。(黒田 理)

だが裁判で立ち退きを求める国

る芸術家たちが寄贈した。

市民が常駐し、脱原発運動の拠点となった。作品は、趣旨に賛同する芸術家たちが寄贈した。

だが裁判で立ち退きを求める国